

平成 30 年度第 2 回豊明市地域公共交通会議 議事録
(豊明市地域公共交通活性化協議会合同会議)

日 時 平成 30 年 7 月 23 日 (月) 午前 9 時 30 分から午前 11 時 15 分まで
 場 所 豊明市役所 分庁舎 2 階 会議室 1
 出 席 者 16 名 (うち代理出席 5 名)
 欠 席 者 6 名
 事 務 局 豊明市役所 行政経営部 とよあけ創生推進室
 傍聴の可否 可
 傍聴の有無 有 (9 名)

議 題 (1) ひまわりバス路線再編計画 (案) について
 (2) デマンド乗合交通「チョイソコとよあけ」の無償実験と事業展開について
 (3) 市道桜ヶ丘沓掛線の開通について

そ の 他 なし

議 事 内 容

発 言 者	内 容 (要 旨)
	開会
会長挨拶	
松 本 会 長	本日は、ひまわりバス路線再編の具体的な内容についてご協議いただく。この内容は、これからの市民の方々の移動しやすさに大きく関わってくる。バスは、利用する人や目的によって使われ方は様々であるため、それぞれの立場から再編案について問題がないかしっかりと見ていただきたい。
議題 (1) ひまわりバス路線再編計画 (案) について	
委 員 (名鉄バス)	ひまわりバス路線再編計画案に関して、路線及びダイヤ作成の面で協力させていただいている。現行のひまわりバスは、狭隘な区間での路線設置やタイトなダイヤ設定となっているため、一旦遅延が発生すると、その遅延を回収することが難しい。また、連続乗務という部分においては、法律的な問題から運転士は 4 時間以上連続して乗務することができない。ただ、タイトなダイヤ設定であるひまわりバスでは、この状況を回避させるため、路線によっては 3 人態勢で運行を維持している。今回の再編計画では、ダイヤを大きく見直し、特に、便と便の間 (口開け時間) を 20 分以上とすることで、仮に遅延が発生しても、労働条件によらず運行が維持できるダイヤ編成としている。
委 員 (東名交通)	今回、アイシン精機(株)と(株)スギ薬局が実証実験を行うデマンド型乗合交通に関して、非常にいい取り組みであり、地元企業として協力したいという気持ちはある。一方で、お客様が行きたい目的地へドアツードアでお運びすることがタクシーの強みだが、事業に賛同した企業しかお客様をお運びできないという形態は、通常のタクシー業務との住み分けが難しい。このため、当事業への参画を辞退させていただいている。ただ、名古屋タクシー協会が事業を支援していくということで、当社も違う形で協力はしていく。

<p>委員 (中部運輸局)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 路線再編の基本方針に、豊明市地域公共交通網形成計画の基本方針2「周辺市町との結びつきを強化し、より密な連携を図る広域的な地域公共交通ネットワークを形成」の部分が反映されていない。 2. 路線再編に基づき、今後発生する路線の新設、廃止、運賃設定などの手続きについてスケジュールをお示しいただきたい。 3. 中央循環コースについては中型車両への移行を検討しているということだが、車両が大きくなると道路管理者や協議会での協議、国への手続き等もあるため、忘れることのないようお願いしたい。 4. 館地区の地域路線についても運賃の協議が必要であり、また、乗り入れている名古屋市との協議も必要になる。名古屋市交通局の方が委員となっているため、会議の中で協議していくという解釈でよいか。 5. 広域的なネットワークの形成と言っている一方で、資料の図を見ると豊明市のみの地図表記となっており、近隣市町の情報が少ない。市周辺の施設や交通機関などを記載しておかないと、イメージが湧かない。地図の表記方法についても検討いただきたい。 6. 藤田保健衛生大学病院は、名鉄バス、ひまわりバス及び名古屋市バスが乗り入れており、結節点として活用を検討してみてもどうか。
<p>事務局</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1・6 ひまわりバス路線については、地域公共交通網形成計画のネットワーク形成方針において、市内の拠点及び主要施設と人口密集地を密に循環する路線に位置付けており、市域を超えた移動需要に対応する役割は与えていない。ただし、市域を越えた移動ニーズに対応するため、様々な検討を始めている。 <ol style="list-style-type: none"> ① 徳重方面への移動需要については、前後駅から藤田保健衛生大学病院を経由して名鉄バスが、藤田保健衛生大学病院から名古屋市バスが乗り入れているため、今回の路線再編において藤田保健衛生大学病院を結節点としてひまわりバスを密につなぐことで、徳重方面へ移動しやすくなると考えている。 ② 刈谷市井ヶ谷町方面への移動については、コミュニティバスではなく民間バスで対応可能かどうか刈谷市と協力しながら検討することを考えている。 ③ 東郷町との接続については、現在のひまわりバスは東郷町内の「三ツ池」というバス停で結節しているが、実際には乗り継いで利用されている方はほとんどいないため、抜本的な見直しが必要である。現在、東郷町は藤田保健衛生大学病院への乗り入れを検討し始めたところであるため、東郷町と協力しながら、結節について検討していきたい。 ④ 大府市との接続については、大府市のコミュニティバスを前後駅へつなぐ形で検討を始めている。 2. この会議においてひまわりバス路線再編計画(案)が承認された後、8月6日(月)よりパブリックコメントを実施し、いただいた意見に基づいて修正を行い、9月中旬から下旬に開催予定の第3回会議において計画策定とする予定である。計画策定後は、運行事業者選定のプロポーザルを経て、年末頃には愛知運輸支局に申請ができると考えている。 4. 館区地域路線の名古屋市への乗り入れについては、昨年度より名古屋市交通局と調

	<p>整を始めている。ただし、地域路線についてはあくまでも案であり確定ではないため、引き続き名古屋市交通局と調整しながら実現していきたい。</p>
松本会長	<p>計画（案）に記載されているバス停は、道路管理者及び警察と事前に設置の可否について、事前に協議をしているのか。</p>
事務局	<p>事前に協議を行い、設置が可能である旨の回答を得ている。</p>
委員 (中部運輸局)	<p>運行開始はいつからか。</p>
事務局	<p>平成31年4月を予定している。</p>
委員 (中部運輸局)	<p>広域的な路線を考えていくうえでは、路線間の乗り継ぐ場所も大事だが、ダイヤについても非常に重要である。十分に検討いただきたい。</p>
松本会長	<p>地図表記については、今回は市内を循環するひまわりバス路線の再編であるため、市内のみの表記となっているが、今後、バスマップ等の作成にあたっては、周辺市町の表記も検討していただきたい。</p>
委員 (名古屋市交通局)	<p>館地区の地域路線について、路線はまだ未確定であるものの「幕山」のバス停を設置したい旨は聞いているが、計画案を見ると「桶狭間」にもバス停設置が予定されているため確認したい。</p>
事務局	<p>「幕山」か「郷前」のどちらか一方に接続する形を考慮しており、両方接続させることは考えていない。</p>
委員 (タクシー協会)	<p>「チョイソコとよあけ」については、人の移動に対して非常に画期的な施策である。タクシー協会としても、先般、タクシー事業者に対する説明会を開催した。既に数社から打診がある。最初は実証実験のため無償運行だが、将来的には定額運賃による巡回型乗合交通に移行していくということで、協会としても精力的に協力していきたい。</p> <p>この「チョイソコとよあけ」も重要なのはバスと同じく利用率である。利用率が低ければ路線は維持できない。ぜひ、委員のみならず各方面に周知いただき、路線の利用率をあげ、ひいては接続する各種公共交通機関の利用率も相乗効果であれば良いと思っている。そして、「チョイソコとよあけ」でもカバーできないエリアについては、タクシーを活用していただけるような交通体系の構築を切に願っている。</p>
事務局	<p>「チョイソコとよあけ」については議題（2）で詳しく説明するが、オンデマンド型の乗合交通をアイシン精機㈱と㈱スギ薬局と連携して実施することとなった。まずは仙人塚地区にて無償での実証実験を行い、将来的にはタクシー事業者による有償運送に移行していく。「チョイソコとよあけ」のねらいは、コミバス以上タクシー以下の交通形態の構築である。運賃についてもコミバス以上タクシー以下の設定を検討中であり、金額としては200～300円程度を考えている。残りの運行費用については、協賛企業にご協力いただき、お出かけの足をみんなで支えていくことで事業を成立させていく。更に、協賛企業は「チョイソコとよあけ」の目的地とすることで、お出かけの足の確保、目的地の設定及び健康増進をセットで展開していく全国的にも類を見ない形となる。それ以上のサービスについては、ぜひタクシーを使っていきたい。</p>

<p>委 員 (交運労協)</p>	<p>藤田保健衛生大学病院は、特に水曜日の外来患者が多く、駐車場入りきらない車で渋滞が発生している。通過に30分以上かかることもある。ただ、恒常的な渋滞ではなく、午前中で解消するときもあれば、午後まで継続するときもある。今年は特に暑いため、バス停でお待ちのお客様のためにも遅延に関する情報をバスに表示するなど、渋滞予測はできないが、渋滞が発生する場合がある旨をお客様に知らせるような対策をお願いしたい。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>藤田保健衛生大学病院の渋滞対策は我々の課題である。遅延に関する問い合わせも多いことから、バス停に予め渋滞に関する情報を掲示するのは良い考えである。しかし、遅延時間は予測できないため、単に「遅れることがあります」の表示だけで良いかどうかは検討しなければならない。また、藤田保健衛生大学病院と協議が必要だが、敷地内の道路に公共交通専用レーンを作ることで、自家用車との棲み分けができ渋滞対策になるのではと考えている。まずは、渋滞に関する情報掲示から始めていきたいが、渋滞はひまわりバスだけではなく名鉄バスや名古屋市バスにも影響してくるため、藤田保健衛生大学病院と交通事業者が一体となって対策を検討していきたい。</p>
<p>松 本 会 長</p>	<p>ひまわりバスはバスロケーションシステムを導入しているか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>昨年の4月から導入しており、各バス停にQRコードを設置している。導入して1年ほど経つが、未だに問い合わせも多く、なかなか浸透していない。QRコードを大きく掲示するなど、バスロケーションシステムを使ってもらえる工夫を検討していかなければならない。</p>
<p>委 員 (公 募)</p>	<p>P.45の地域路線(館ルート)について、館区は道も狭く坂も多いため、高齢者が歩くのも大変な地域である。買い物帰りに重い荷物を持って帰るのも大変だという話を聞く。ワークショップにおいても、バス停増やしてほしいという意見があったが、停留所の設置条件がクリアできるのであれば、バス停は増やした方がいい。仮に増やしたとしても、全てのバス停に止まるわけでもなく、停車回数も増えないのではないかと。館区内の利便性を考えると、1つでも多くのバス停を設置していただきたい。また、地域路線の設定に関しては、1～数か月ほど試験運行をしたうえで、どんな問題があるか検証すべきである。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>計画案に記載の地域路線(館ルート)は、あくまでも仮であって確定ではないが、事前に地域とのワークショップや話し合いの意見を基に路線を引いている。しかし、この路線が実際に生活していくうえで使えるものかどうか分からないため、一度、試験運行を実施したうえで検証することは必要であると考え。導入時期も見据えながら試験運行が可能かどうか検討していきたい。また、バス停設置については、細かく設置するに越したことはないが、バスはバス停に設定したダイヤより早く出発することができない。また、時間調整のために、利用者がいなくてもバス停に停車する場合があります。安全に車両が止められる場所も考慮する必要がある。特に館地区は道路が狭いため、バス停設置には注意を払って検討していく。</p>
<p>委 員 (女性の会)</p>	<p>私が住んでいる地域は、地域路線検討地域となっている。当初、この話を聞いた時はとても不安で、この先どうなってしまうのかという気持ちであったが、話し合いを重ねていく中で、ひまわりバスに変わる交通対策を検討していただいているということで、</p>

	<p>少しずつ安心感に変わっていったというのが正直な感想である。</p> <p>先ほど、バス停を増やすとの話があったが、P.25に「1日あたりの利用者数が2人以下のバス停については見直しの検討」との記載がある。バス停を増やすと利用者が分散してしまい、1バス停あたりの利用者数が下がることも考えられるため、一概に数を増やすというのも心配である。また、7月上旬に開催された、ひまわりバス路線再編に関する意見交換会に参加したが、その際に「現在のひまわりバスのダイヤは、福祉体育館で実施する講座等の開始時間に合っていないため、参加者は車で来場する方が多く、駐車場はいつも満車である。講座等の開始時間にバスが着いてほしい」との意見があった。同様の意見が多数出ていたが、今回のダイヤを見ると、その意見が反映されていない。このまま再編をすると、同じような意見がたくさん出るのではと懸念している。今後はどのように考えているのか。</p>
事務局	<p>バス停の設置については、できるだけ細かく設置した方がよいと思う一方で、停車数が増えると目的地へ着くまでの時間が非常に長くなってしまう。そのため、バス停が必要かどうかを検討していくための一定の目安は必要であると考え。基準は、あくまでもバス停設置の必要性を判断するためであって、利用者が2人以下になったからといって即廃止ということは考えていない。</p> <p>意見交換会での福祉体育館についていただいた意見は、10時に始まる福祉体育館での講座等について、現在のひまわりバスは9時台後半に到着する便がないため、車で来場するしか手段がなく、結果的に駐車場が満車で停めることができないという内容である。当会議で提示させていただいている資料に記載のダイヤは意見交換会と同様のものである。この内容でパブリックコメントを実施し、寄せられた意見と意見交換会の内容を踏まえて、ダイヤの最終調整をさせていただきたい。福祉体育館にダイヤを合わせることで、同じ時間帯に他の目的地へ行きたい人の足を削ぐことのないよう、多様な意見を踏まえて最終調整していきたい。</p>
委員 (豊障連)	<p>福祉体育館をはじめ、市役所や文化会館など、駐車場が満車になるということは、バスが機能していないということも言える。寄せられる意見の中には、バスを利用しない方の意見もあることから、どの意見が必要なのかをしっかりと見極めて計画に反映させてほしい。また、ひまわりバスの路線再編や地域路線の導入など知らない人もたくさんいる。しっかりと周知をしてほしい。</p>
事務局	<p>館区では、今年の冬頃から意見交換会を実施している。ひまわりバスの利用者は高齢者が多く、合計100人以上の方の意見をお伺いすることができた。沓掛地区では、週末を利用して各町内会を回り、たくさんの方と意見交換会をさせていただいた。意見交換会に参加された方のほとんどがバス未利用者であり、今のひまわりバスは非常にもったいないとの意見が多く寄せられた。ただ、移動の足は引き続き必要なため、地域路線の導入についてご審議いただいている。</p>
松本会長	<p>今回の見直しは非常に大きく、今まで走っていたところが走らなくなる。ただし、そこに関しては、公共交通がなくなるわけではなく、違った形で交通手段を検討していく。その方針については、地域ですすでにご理解をいただいているということである。</p>
【承認】	(異議なし)

報告事項（２）デマンド型乗合交通「チョイソコとよあけ」の無償実験と事業展開について	
委 員 (タクシー協会)	健康増進という大きな目的を掲げているが、仙人塚地区では 65%の人が免許証を持っていない一方で、バスを利用する人は 20%である。残りの 45%の人について、公共交通以外の方法で外出していれば良いが、もし家に閉じこもっているのであれば、非常に不健康である。今後、「チョイソコとよあけ」による外出頻度や健康増進についてのデータを取る予定はあるか。高齢者の健康増進に関しての実効性がデータとして得られるのであれば、大変貴重なデータとなるため、交通会議等でご報告いただきたい。
事 務 局	単なるお出かけではなく本当に健康につながっているかどうかを検証することが、この事業の成功につながる。この「チョイソコとよあけ」は、我々交通担当部局だけではなく、高齢者施策担当部局も参画しており、この部局が高齢者の健康実態調査を実施する予定である。この調査は、3年に1回、市内の全高齢者に対して健康実態を把握するために実施されており、今回は平成 31 年度、その次は平成 34 年度に実施を予定である。この調査により、「チョイソコとよあけ」を利用した人が 3年間でどのように健康実態が変化したかをデータでとることが可能である。そういった検証を行いながら、事業の成果を出していきたい。
松 本 会 長	体の健康もあれば心の健康もある。「チョイソコとよあけ」が他の乗合交通と違うところは、健康増進を目的としているところである。私はここが一番おもしろいと思っているが、現在のスキームでは、一番重要なところが不明確である。単に目的地に行くことが主になっているが、本当は、行先でどのようなプログラムが提供されるのか、どのようなことが高齢者の行先となり得るのかが重要である。ぜひ明確にして報告していただきたい。
委 員 (中部運輸局)	「チョイソコとよあけ」は、先進的な交通だと思っている。大袈裟かもしれないが、コミュニティバスが出現して以来の大きな制度が、民間主導で動いているということで、非常に注目している。今後は、豊明市内の各地区、他の自治体や全国に順次拡大していきたいということで、ある種のモデルになる。そのため、仙人塚地区の足の確保という狭い地域でのシステムとして考えるのではなく、今後広く普及させていくにあたって、タクシー事業者は当然ながら、バス事業者、鉄道会社や地域の対象となる施設等事業者に対してどういう影響があるのか、また、行政としてもどのような影響がでるのかしっかりと検証したうえで、興業的なシステムとしてしっかりと機能しているかどうか、広い目で意識して確認していただきたい。
事 務 局	アイシン精機㈱や㈱スギ薬局と協力しながら、また、協賛企業以外のところについてもヒアリングを行いながら、各方面への影響を検証していきたい。
報告事項（３）市道桜ヶ丘沓掛線の開通について	
	(意見なし)
【 了 】	